

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100102		
法人名	(株) 快GO TOKAI		
事業所名	グループホーム 住ま居る		
所在地	岐阜県多治見市笠原町2455-42		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2191100102-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2191100102-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年11月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも住ま居るで暮らせる」という観点から、ハード面では全館バリアフリー、オール電化となっており、重介護に対応できるようリフト浴が設置してある。またソフト面では、専従の看護師が主治医、薬剤師等の医療従事者と密に連携をし、ターミナルケアを視野に入れた日々の健康管理など、質の高いケアを実施している。介護職員の研修体制も充実しており、ホームでの勉強会、外部での研修機会を多く確保している。この事により、質の高いサービスが提供でき、利用者、ご家族が安心して過ごせるよう積極的に取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の名称「住ま居る」のままに、心温まる笑顔の絶えない暮らしを提供している。利用者の歴史、体験、こだわり、習慣をより深く理解できるよう、回想法を取り入れ、利用者の過去を現在に活かしている。利用者は、懐かしのメロディーを口ずさみながら、家事やゲームを楽しんでいる。利用者同士の会話も弾み、どの人の表情も穏やかで明るい。職員は、運営の理念や高齢者の心理を深く認識し、利用者同士のトラブルも、自然体で関わり、何事もなかったように収めている。常に、より良いケアを目指し、スキルアップにつなげている。さらに、終末期ケアでは、生命の尊さに向き合い、質の高い介護を実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は職員が共有できるように、事務所に掲示し、各自確認し業務にあたるように指導。更に具体的に認知症ケアの実践に即した「住ま居るの合言葉」を作り、具体的などのような姿勢で関わっていくべきか話し合い、実践に繋げている	理念は、事業所内の目立つ位置に掲げ、日々、利用者との関わり方を振り返り、地域密着型サービスの意義を共有している。利用者の自立を支え、笑顔で寄り添いながら、心温まる穏やかな生活支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等へ定期的に参加している。施設の行事には地域の方へ声をかけ参加して頂いている。近隣の店舗に職員と出掛け交流を図っている。地域幼稚園、地域他施設との定期的な交流を行っている。	町内会費を納め、地域の一員として、町内の清掃に加わるなど、日常的につきあっている。4名の職員が地区の会員であり、地域に事業所の役割を発信するよう努めている。また、地域の行事に参加し、幼稚園児、中学生、他施設などとの交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護相談を受け付け、関係機関と連携を図って支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では市職員、地域包括支援センター職員、地域住民、ご家族からの意見を頂き、スタッフと話し合い参加者の安心に繋げていけるよう対応を図っている。	会議は、定期に開催をしている。事業所の実情を報告し、出席者からの意見や要望などを話し合っている。他事業所の事故事例についてや、危機情報の共有、外出先の提案などを検討し、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の相談、意見交換等は密に出来ている。又、代表者は、介護認定審査会委員を行っているため、その場を通じて、意志の疎通が図れている。	市の担当者へは、運営推進会議で、事業所の実情を伝えている。また、市の介護認定審査会やケアマネジャー会議に出席をしている。法改正についてや、申請手続き、困難事例を相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議において、利用者様の処遇を話し合う中で、身体拘束の具体例を挙げながら、職員間で話し合う場を作っている。	転倒予防対策では、職員の創意工夫により、利用者が不安に感じたり、ストレスにつながらないように、取り組んでいる。玄関の出入りは、チャイムで察し、見守りながら、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を常に閲覧できるようにして全職員が理解できるように努めている。管理者は職員会議や業務内で注意喚起を行い防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を通じて、把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に密に文章で説明し、理解をいただいている。料金改定や加算について、運営推進会議にて丁寧に説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関、リビングには、意見箱を設置し意見が出やすいようにしている。又運営推進会議、家族会を通じ意見を伺っている。	利用者の要望を、日々の会話の中で把握をし、家族からは、運営推進会議や面会時に確認をしている。家族から、健康への不安や外出支援、個人情報保護についての意見があり、分かりやすく説明を行ない、運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、責任者会議、全体会議を開催し、職員の意見が反映されるように務めている。	毎月、職員の意見や提案を話し合う全体会議を行なっている。介護の基本姿勢やヒヤリハット対策、献立内容の工夫、学習会のテーマ設定など、様々な議題を検討し、サービスの改善と運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との意思疎通を図り、風通しの良い職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、外部での研修の参加、毎月の勉強会を開催し職員のレベルアップ。質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学、イベント等への参加を通じネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のホームの見学、ご家族、担当ケアマネからの情報収集を行い本人の嗜好、趣味等を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望、不安点等を聴きながら、家族の思いを受け止め、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望等を把握した上で、入所が本人、家族にとって望ましいか等、担当ケアマネ等法人外部とも連携し、必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩と位置付け、職員の立場をわきまえた上で、よりよい関係づくりができる様努めている。また認知症というレッテルを貼らず人として尊厳ある対応ができるよう職員間で話しをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況を理解しながら、家族の役割、ホームの役割を把握し、家族との良好な関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の馴染みの場所に出向く事ができる利用者様は少ないが、馴染みの美容院や接骨院、飲食店にご家族の協力のもと出掛けることができるよう援助を行っている。	家族や親戚、知人の訪問があり、時には、職員も一緒に談笑し、再訪しやすいよう雰囲気づくりに努めている。野菜市場や近くのコンビニ店で、知人と出会うこともある。家族の協力を得て、行きつけの美容院や飲食店、病院や墓参りやなどへ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士が共に生活しているという事を理解した上で、利用者同士がよりよい関係が築けるよう、職員が間に入り援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体状況の変化により他施設に移られた方へ、面会をして関係性の保持に努めた。また他界された利用者様のご家族が時折来所される事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関係者からの情報収集を行い入所前の暮らし方等の把握に努めている。また日々の言動、行動を観察し全体会議などを通じ情報の共有に努めている。	日常生活や会話から、利用者の思いや意向を把握している。困難な人は、問いかけの反応や表情から察するよう努めている。家族と連携しながら、利用者が、自分らしく、意欲的に暮らせるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に所定の記録用紙に記入して頂き、入所前の暮らしなど、ご本人の歴史の把握に努め職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL等のアセスメントを行い、有する力、心身状態の把握に努め、介護記録に記載し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族はもとより、主治医、看護師、介護職員がそれぞれの視点から意見を出し合い、介護計画の作成に関わっている。	介護計画は、サービス担当者会議に家族も参加し、本人に関わる関係者の意見や助言を踏まえて、作成している。利用者の健康を維持し、楽しみと生きがいを持てるよう目標を立て、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など個別の介護記録に記載し共有出来ている。また申し送りノート等を活用し情報の共有に努めている。また日々のケアは介護計画に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能が低下された方へ、訪問マッサージの利用についてご本人、家族と検討、支援を行い、身体機能の維持に繋げるよう対応を図った。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と関わりが持てる様、定期的なボランティアの協力や、近隣の幼稚園や地域の他施設との交流、地域の行事に参加し交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医の往診が月に2回あり。その他に必要な応じ適切な対応を行っている。又入所前のかかりつけ医への受診等の希望があった場合は柔軟に対応している。	かかりつけ医の継続は1名のみで、他の利用者は協力医に変更し、往診を受けている。かかりつけ医の受診は、基本は家族が行っているが、場合によっては、職員が受診同行し、結果を家族に伝えている。急変時は、協力医による適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師が日々健康管理をし必要に応じて介護職員へ対応の仕方など説明し適切に対処している。また介護職員からの情報提供も適切に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際の対応、スムーズに対応できるよう、入院先の医療機関と連携、情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、重度化に関する指針など密に説明を行い同意を受けている。また本人、家族の方針を伺っている。また関係施設への紹介も行っている。	重度化した場合、事業所での生活が困難な場合は、医療機関と連携し、選択肢を提示している。終末期に向けては、本人、家族と段階的に話し合い、家族の同意を得て、悔いのない最期を迎えることができるよう、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時に関する勉強会、地域消防署による研修を受講し急変時などに備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署による避難訓練を実施。災害対策として、地域住民、地域企業への協力をお願いしている。災害に備えて食料品の備蓄と必要物品の確保に努めている。	災害訓練は、消防署の協力の下、定期に実施をしている。昼夜を想定した火災訓練では、避難や消火訓練などを行なっている。地域の協力者や企業には、事業所の見取り図を提供している。家具の倒壊予防対策を行ない、備蓄品を確保している。	関係者への通報は、素早く伝達できるように、緊急連絡網の整備やシステムの工夫をし、備蓄品の耐用期限や個数など、把握しやすい管理表の作成に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の尊厳を守り、その人らしく過ごせるよう対応している。個室に職員が入室する際は、本人の許可を得るよう指導している。	利用者の人格や習慣を尊重し、自尊心を損ねない、言葉かけや対応に心がけている。不穏な行動には、職員が過剰に反応することなく、さりげなく優しく接し、利用者の不安や、ストレスの軽減を図れるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう、利用者自身が選択できるような声かけを行っている。職員が一方的に決めるのではなく、個人の生活史を踏まえて本人の立場に立った自己決定ができるように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入床時間等特に決まっていない。レクリエーションの参加なども同様であり本人が選択できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力していただき、外出着も用意していただいている。また理美容に関しても、なじみの店に通って見える方もみえる。日頃の衣服選択の際にもおしゃれを考えた服装選択の援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、利用者専用の意見箱を設置し意見を取り入れながら行っている。配膳の準備など担当を決め行っている。	献立には、利用者の好みや旬の食材を取り入れている。利用者は、配膳や片付けなど、自発的に関わっている。職員1名が、見守りと介助に付き、食後には、利用者と職員、また、利用者同士で、楽しい会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては、摂取量を記録し把握している。また、食べやすい形状に調理する等の工夫をしている。水分摂取に関してもいつでも水分を摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じた口腔ケアを実施し、口腔内が清潔に保てるように支援している。また必要時歯科の受診を支援している。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況、個々の排泄パターンを把握し、個別対応している。夜間の声かけ誘導の継続や、個人の排泄状況を把握し不要なバットを中止するなど、排泄環境の改善を図った。	個々の排泄パターンに応じて、声かけとトイレ誘導を行い、失禁を減らし、利用者の自信につなげている。夜間も、利用者の状態に合わせて、排泄用品を組み合わせ、タイミングよく声をかけながら、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては、記録に記載し看護師が把握している。便秘予防に十分な水分摂取、適度な運動の機会が確保できるよう取り組んでいる。特に排便コントロール、状況把握が必要な方は職員全員が把握して対応できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は、プライバシーの配慮はもちろん、入浴日ではなくても本人の希望があった時には入浴していただけるように取り組んでいる。	入浴は、本人の希望により、柔軟に対応をしている。拒む人には、無理強いをせず、日を改めたり、時間を変えて促している。本人好みの湯加減や、思い出話を職員と交わしながら、ゆったりと、楽しい時間を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、身体状況など考慮し心地よく安眠できるよう取り組んでいる。日中、夜間ともに入床に関しては利用者の意思を尊重しているが、生活のリズムが崩れないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者個々の内服薬が把握できるよう各利用者記録にお薬手帳、説明書が保管されている。看護師が利用者の状態を把握し、主治医、薬剤師と密に連携し取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については、本人に合った手伝いを検討し、ケアプランに上げ、本人とも話し合いながら取り組んでいる。楽しみについてはどんな事がやりたいか等、利用者の意見を取り入れて行っている。また地域ボランティアの協力もある。以前からワインを嗜む方への援助を継続している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が多く持てるよう、天候のよい日は散歩に出かけたり、飲食店に出かけたり、個人の買い物の支援、地域行事への参加、ご家族との外出の呼びかけなどを行っている。	事業所周辺を、日々散歩している。また、テラスで、茶を飲みながら、外気に触れている。個別の外出では、買い物やコンビニのカフェコーナーに出かけたり、地域の行事や桜や紅葉狩りなどの季節の花見、初詣などに出かけている。普段行けない所へは、家族の協力を得て出かけている。	

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	運営推進会議で以前お金をもつことの大切さを話し合い、そのことを職員が理解できるようにしている。買い物レクなどを継続して本人の能力に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は、家族に連絡が取れるよう支援している。なじみの方から手紙が届く事もあり、返事が送れるような支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常の整理整頓、清潔を心掛けている。また空調管理などのこまめに行い快適に過ごせるよう、取り組んでいる。四季おりおりの切り花などで季節感を感じてもらえるようにしている。	玄関には、観葉植物が置かれ、絵画・書画が飾ってある。居間の大型テレビの前に、皆が寛げるソファを配置し、窓からは、吊した手作りの干し柿が見え、家庭的である。四季の切り花を飾り、季節感のある居心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が快適であるよう家具などにもこだわっている。また外にはウッドデッキが有り、独りや気のあった仲間とほっとできる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具等を持ち込んでいる方も多い。本人が心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	居室には、クローゼットとベッドが備え付けてある。整理ダンス、飾り棚、時計や鏡など、馴染みのものを持ち込み、カレンダーや手づくり作品、家族の写真などを飾り、落ち着いて安らげる部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握し、利用者ができる限り安全な自立した生活が送れるよう工夫している。居室内で福祉用具を使用することで、自己にてスムーズな移動が可能になり、快適な生活の援助となっている。		